

## スピーカーアキュライザーの導入(7)

### —Spotify・YouTube—

#### 1. 始めに

前報(6)に引き続き、スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴を実施します。

#### 2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとします。

今回は、Spotifyの配信とYouTubeを試聴します。

試聴のポイントは、圧縮音源やライブ収録のクオリティの確認です。また、演奏会の経験や、関連するパッケージメディアがあれば、それとの比較にも注目します。

対象のSpotifyの配信音源は次のとおりで、PCからSonica DAC経由で再生します。PCではWindowsで、192KHzにアップサンプリングして送り出しており、Sonica DACには、その表示が出ています。

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲5番 \*\*

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ \*

堀米ゆず子 (ヴァイオリン)

バッハ ヴァイオリン協奏曲集 \*\*\*

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

バッハ Golddberg 変奏曲 \*

家喜美子 (チェンバロ)

バッハ リュート組曲 \*

Alberuto Crugnola(リュート)

\* : 演奏は違うが CD を所有

\*\* : 演奏が同じ CD を所有

\*\*\* : 演奏が同じアナログ盤所有

対象のYouTube音源は次のとおりで、PCからSonica DAC経由で再生します。

昨年7月23日に相模湖交流センター「ラックスマンホール」で開催された第6回ベートーヴェン国際ピアノコンクールアジアの入賞者コンサートのYouTubeを試聴しました。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202301/26/24029.html>

演奏の詳細は、[ライブストリーミングを楽しむ\(51\)](#)で報告しています。

### 3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

上記は、それぞれのサイトから、順次指定して再生していきます。

モーツアルトのヴァイオリン協奏曲5番は、ヒラリー・ハーンのCDを持っており、ヒラリー・ハーンの演奏自体は別の曲を何回か聴いています。生演奏で聴くヴィヨームの繊細な音色には届きませんが、これまでであったざらつき感は払しょくされ、CDに近づいています。

バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、昨年12月に堀米ゆず子のソナタの3番とパルティータの3番を聴いており、演奏家違いではアナログ盤とCD多数をもっています。ガルネリの音色は、演奏会のレベルには及びませんが、これまでと違って良質のCDを聴いているようで、とても圧縮音源とは思えません。

バッハのヴァイオリン協奏曲集は、ヒラリー・ハーンのアナログ盤があり、演奏会では二つのための協奏曲の2楽章をアンコールでヒラリー・ハーンのパートを榎本大進で聴いています。アナログや生演奏には及びませんが、雰囲気は良く出ています。

バッハのGoldberg変奏曲は、演奏会でもCDでもよく聴いています。演奏家違い、チェンバロの機種違いですが、とても圧縮配信音源とは思えないほど繊細な表現が出ており、ジャン・ロンドーの演奏するCDに近い音がしています。

バッハのリュート組曲は、この曲自体の演奏は聴いたことがありませんが、リュートの曲は、サロンコンサートで聴いています。圧縮音源ですが、胴鳴りやピックの音もリアルで、CDに近く、まるでロスレス配信のように聴こえます。

「ラックスマンホール」のコンクール入賞者コンサートのYouTubeは、若手演奏家の弾くベーゼンドルファーの音色がどれだけ再現できているかがポイントです。ベーゼンドルファーの活かし方やタッチの強さは十分ではありませんが、ベーゼンドルファーであることは分ります。特に男性演奏家の場合にはベーゼンドルファーらしさが出ています。

### 4. まとめ

Spotifyは、生演奏やアナログのレベルとは比較できませんが、中には良質のCDを聴いているようで、とても圧縮音源の配信とは思えないものもありました。ラックスマンホールの生録YouTube配信は、これまでのYouTubeと比べてグレードが上がっています。

以上